

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、_：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	住宅販売会社（経営者）	・展示場来場者の動きは悪くない。受注も上向きにある。やはり年内限りのローン減税の駆け込み受注が更に出てく
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・3か月先にシリーズベストセラーの新刊が発売になる。単月でも売上げが見込める。
		一般小売店〔カメラ〕（店長）	・昨年同時期で比べても、10%以上の売上の伸びがあり、販売件数も伸びている。客の行動が活発になりつつある。
		スーパー（経営者）	・総額表示移行から3か月が経過し、客も慣れてきて、少し買上点数、購買量に変化が出てきている。それに、このところの景気の若干の上向き傾向やボーナス支給額が多少増えるという報道等で購買心理が上向く。また去年は冷夏で低迷したが、今年は必ず上向く。
		コンビニ（エリア担当）	・去年の6月は、たばこ増税前の特需があり、その反動で7月のたばこの売上は落ち込んだため、数字的には前年比プラスとなる。今後も気候の影響を受けるが、例年並の夏となれば、前年比を大きく上回る結果となる。
		衣料品専門店（経営者）	・現状はまだまだ先行き不安の状況であるが、少しでも先行きの見通しが良くなる期待感と、買い控えに飽きた客が良いものを求める動きも出てきている。そうした中で今後の参議院選挙の状況や国の方向性が明確になり次第、景気は上向きになる。
		衣料品専門店（店長）	・冷夏であった昨年と比較し、シーズン商品の需要が期待でき、高単価商品の動きが良くなっている。
		乗用車販売店（経営者）	・景気回復報道に、賞与支給が絡むことで実感が伴えば、台替ニーズも高くなる7～9月は新車販売の前年比伸長が見込める。各メーカーともに晩夏から秋にかけて続々と新型攻勢をかけてくるので、需要はそこそこ盛り上がる。
		自動車備品販売店（経営者）	・まだ売上の動きは感じられないが、高速道路の工事による資材運搬の物流は確実に増える。今季長期予報は気温が高いとの予想、去年の異常な冷夏を考えると非常に明るい情報である。夏が夏らなければ業界だけでなく、個人消費が増えるので期待したいところである
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・前年冷夏に泣いたが今年の天気は例年並が予想されること、原油の価格高騰が一段落したため、製品価格が落ち着いた点等から販売数量の回復が見込める。また価格の転嫁が一通り浸透した点から収益の回復が見込める。
		スナック（経営者）	・今月前半は暇であったが、後半に入り急に人出が増えている。ボーナスが出たためかもしれないが、やや良くな
		観光型ホテル（経営者）	・7、8月の予約数は、昨年より1割程度多く、特に平日利用客が多い。予約の時期が多少早まっている。またインターネット利用の予約客が多くなってきている。
		観光型旅館（経営者）	・庭園大露天風呂と離れのデザイナーズ旅館への改造工事が着工した。PRは遅れているが、ハードと平行してソフト及び従業員の気持ちをどう変革するかが課題である。この閉塞状況からブレークスルーするには設備投資等のきっかけが必要である。
		住宅販売会社（従業員）	・受注残が年内分を確保しており、また今後受注を確約されている物件が、昨年より明らかに多い。
		住宅販売会社（従業員）	・個人住宅、マンションについては今のところあまり変化がないが、企業の土地活用には活気が見られるようになってきている。
変わらない		商店街（代表者）	・年金とか政治、雇用問題等いずれも将来不安の解消がなかなかできない。参議院選挙が終わり、オリンピックが終わる秋口は、良くなるというよりもこの足踏み状態が続いている。
		商店街（代表者）	・一喜一憂の月々である。これから先も出退店が予定されている。傾向としては地元の店が退店し、中央資本の店が進出するというパターンが顕著である。
		百貨店（売場主任）	・これから中元商戦が本番となるが、選挙絡みもあり出足は不調である。特に法人関係が利用する石鹸や洗剤が不調で、このまま尾を引く。

百貨店（企画担当）	・7月から8月にかけての中元ギフトの動向がカギとなる。夏のクリアランスについては暑い夏が予想されており、売れることは売れるが、収益については利益率が下がり、秋口の仕掛けを含め苦しい展開となる。
百貨店（企画担当）	・売上が急激に上がるような、決定的な施策があるというわけではなく、今の状況で努力するしかなく、短期的には売上状況に変化は無い。
スーパー（経営者）	・急激に悪くなるような要因もなく、かといって良くなる要因もないため、ここしばらくはこのままの状態が続く。
スーパー（店長）	・前年は冷夏の影響で7～8月の売上を大きく落としたが、今年は天候が平年並みの予想であり、天候に恵まれれば7～8月は売上を伸ばすことができる。しかしそれ以降は未確定の部分が多い。
スーパー（店長）	・総額表示による値上がり感が大きく、この状態はまだまだ続く。価格競争で利益が圧迫されている。
スーパー（総務担当）	・推移的には若干持ち直しの傾向が見受けられるが、決して良い話が聞こえてきているわけではない。平均単価が依然として下がり続けていることは、デフレ傾向が収まっていないということである。生活防衛のための低価格品への指向がはっきりしているということかも知れない。
衣料品専門店（店長）	・大幅な値引きをしても売上が伸びる余地はなく、消費者は本当に必要なものに対しての購入のみに絞っており、買上点数が増えず、客単価も上がらない状況が続く。
乗用車販売店（経営者）	・新型車に目新しさがあまり無く、現有車で困っているわけでもなく、将来不安という要素が重なり、自動車市場は低迷状態が続く。
乗用車販売店（経営者）	・7月に更に新型車投入が予定されており、例年は落ち込むが、今年はその分をカバーできる。
その他専門店〔家電〕（経営者）	・年金、消費税総額表示等で客の買い控えは顕著である。購買意欲が感じられない。
その他専門店〔酒〕（営業担当）	・これから考えられる要素は、参議院選挙や中元であるが、選挙はプラス要素ではなく、中元は底を打っている状態であり過大な期待はできない。
その他飲食〔そば〕（経営者）	・すぐ隣の空き店舗に来月から飲食店が出店するため、通りに前のような活気が戻ることを期待する。競争相手が増えることにはなるが、シャッターを下ろしたままの通りよりはましである。
その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	・市内では、老舗の大手建設会社が倒産したり、中堅企業も倒産したりと、全国的な景気回復が言われていても、当市にあっては企業倒産が増えており、景気は良くなってはいない。
観光型旅館（経営者）	・予約状況は直前予約が多く先行きが読めない。現在、当館の客層が一番お金に余裕の無いマーケットになっている様子。厳しい状況のまま推移する。
都市型ホテル（スタッフ）	・総賃金が低下し、夏の賞与も前年を確保できずに下回るのが必至の状況の中、短期的に安く、近場でという動きが定着し、厳しさが続く。こうした環境であるからこそ評価が出る商品を提供するしか方法はない。
通信会社（経営者）	・ボーナスシーズンに入り季節的な要因による波動や参院選挙の結果などにも今後の景気感が左右されてくると思われるが、状況に大きな変化はない。
通信会社（営業担当）	・ボーナス時期を迎えパソコンの購入者が増えインターネットを始める顧客が増えると思われるが、同時にIP電話への移行等（減収）もあり、収入としてはトントンである。全体的には伸びないと予測される。
テーマパーク（職員）	・7月の予約状況は、同月同日対比で既に20%の減である。6月末からテレビCMを入れるが先行き不安である。
遊園地（経営者）	・昨年は冷夏、長雨であったが、今年は平年に戻ると見られ集客面でも期待している。しかし台風の通過が多く、台風シーズンへの不安が残る。
設計事務所（経営者）	・暖かくなってきており、仕事は増えているが、中味はほとんど悪くなっている。しかし数だけはそこそこあるので、2～3か月後も今と同じくらいの仕事量がある。

やや悪くなる	一般小売店〔茶〕 (経営者)	・当地の人口の過半数は海関係の仕事を生業としている。昨年は初カツオ等の水揚げでにぎわっていたが、今年はまったくといっていいほど落ち込んでいる。観光客は天候に恵まれ昨年より出足は好調であり、体験ツアーも活発であるが、スローフード都市宣言等の話題提供はしているものの町で見かける観光客は少なく、市内の景気が好転する	
	スーパー(店長)	・競合するスーパーセンターの勢いが止まっており、売上が伸びていない状況である。といっても当店も昨年から実施している24時間営業が1年経過し、プラスアルファ分が無くなるため、昨年対比の数字が厳しくなる	
	衣料品専門店(店長)	・去年よりは夏物需要が動くものと予想してはいるが、現状の消費者の動向はとてシビアで、楽観視できない状況である。	
	住関連専門店(経営者)	・身近な企業の倒産が数件続いており、雰囲気が悪い。また選挙があると売上が低迷するため気になっている。消費税総額表示により、その分の値下げ要請もある。	
	一般レストラン(経営者)	・仕入先の魚屋や八百屋等の様子を見て、あまり景気が良いという話ではない。客では医薬品のプロパーは良いようであるが、その他は良くない。	
	都市型ホテル(経営者)	・同業他社の参入により、当面は苦しい受注状況が続く。業界のシェア争いは生き残りを掛けてますます激しくなる。また地元の一般企業も元気がなく、個人消費、レストランの集客、売上ともに良くなく、回復の兆しが見えてないのが現状である。	
	都市型ホテル(経営者)	・他店も同様であるが、消費税総額表示に伴い、価格を全体的に下げざるを得ない状況になっている。宿泊部門はもとより料飲部門もそうっており、悪くなる。	
悪くなる	スーパー(経営者)	・総額表示の影響が買い控えという形でしばらく続く。消費税が上乗せになった分値上がりしたという印象が定着している。いかんともしい難いが、消費者の認識が変わるのを祈るばかりである。総額表示から3か月たっても消費に悪い影響を与え続けている。	
	スーパー(経営者)	・首都圏と地方との景気回復のギャップ、地元建設業の受注高の激減、ボーナスゼロ回答企業の増加等で、悪くなる	
	衣料品専門店(経営者)	・来客数にも出ているが、今後もこのような経済状況が続くのであれば、何も期待できない。	
	タクシー運転手	・昨日の客の話では、年金の書類が届いたけど、あれ程減額されたのは初めてだと、みんなも言っていたということで、先が見えないような不景気がしばらく続く。 ・今まで1日かけて30人程度の客を乗せていたが、今では朝の2時から翌朝5時まで稼動しても20人程度の客しか乗せられない。	
企業 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	農林水産業(従業者) 輸送業(従業員) 広告業協会(役員) 広告代理店(従業員)	・例年より3~5日くらい生育が早まっており、特に桃の販売価格に期待が持てる。 ・今月は少し落ち込んだが、来月からは新商品や部品の貨物に動きが出てくる。 ・広告業界の回復が早いテンポできている。特に地方では、インターネットのホームページコンテンツ作成の受注が多い。 ・正式受注直前の自主プレゼン案件が正式受注になれば、2~3か月先で受注、売上になるものが多い。
	変わらない	食料品製造業(経営者)	・活気が出ておらず、今後も底をはっているような状態で変わらない。何か起爆剤になるようなものが欲しい。値段が安くなるような話題はあるが、全体のプラスにはならず、まだまだ今のような状態が続く。
		出版・印刷・同関連産業(経営者)	・好転する要因が全く見当たらない。個々には大型案件を受注したりしているが、全体では受注量が減少している。
		出版・印刷・同関連産業(経理担当)	・業績が思わしくなく、リストラを検討している状況である。
一般機械器具製造業(経理担当)		・携帯電話用部品は横ばい状態が続く。自動車部品は現状がかなり高水準にあるため、これ以上の伸びは期待できない	
電気機械器具製造業(経営者)	・ここ数年間は先々の状況がよく見えなかったが、今年4月ごろになってからは半年くらい先までのフォーキャストが提示されるようになってきている。しかし一部の製品に限られており、景気回復とは言えない状況である。		

		金融業（営業担当）	・雇用情勢等から景気が底打ちしたというのは事実だと考えられるが、公共投資は減少しており、個人消費も安定所得層に辛うじて支えられている状況で、景気上昇には時間がかかる。
		広告代理店（営業担当）	・レギュラーの売上は堅調であるが、新しい仕事が見えてこない状況である。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・読者の中に、給料が安く、働き口が無いため、出稼ぎに出ている人がいる。また給料が安いので買物を引き締めている人もいるため、景気に変化はない。
		コピーサービス業（経営者）	・これから当地は販売活動が一番苦しい時期に入り、市場の動きも減速している。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・印刷会社は、夏の賞与が芳しくないということで、消費に回す余裕が無いという話をあちらこちらで耳にする。
	やや悪くなる	食料品製造業（経理担当）	・今年の夏は暑くなると予想され、大幅な受注減が見込まれる。また、原材料価格の値上げも予想され、厳しくな
	悪くなる		
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・オリンピックの関連で家電メーカーで人の動きが活発化してきており、ニーズが発生している。
		人材派遣会社（社員）	・最近では即正社員採用を考えるより、まず派遣社員として導入しその後社員登用を考える企業が増えている。長期安定型の就業を希望する派遣社員には魅力であり、今までは派遣を考えていなかった人も紹介予定派遣の可能性を持って登録に来られるケースも非常に多くなってきてい
		人材派遣会社（社員）	・業界に偏りなく、今まで控えていた幹部社員候補の採用を、コストやパワーをかけて実施するという企業が増えており、良くなる。
		職業安定所（職員）	・新規求職者に占める事業主都合離職者の割合が減少傾向にあり、自己都合離職者の割合が増加傾向にある。
		職業安定所（職員）	・最近6か月以上、求人数の対前年プラスが続いており、今後も継続することが予想される。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・更に良くなるような材料は見当たらない。逆に実務経験の無い若年層には就業機会がほとんど無く、長期的には不安材料である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・業種間の景気感差が強い。全体的な回復傾向にはなっていない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人広告の動きが2、3か月前からやや多くなっている。
		職業安定所（職員）	・常用的求人は、前年同月を若干上回る状況で、大量の求人があったとしても有期雇用が中心で、安定した雇用形態につながっていない。
職業安定所（職員）		・求人の総数は伸びているものの派遣、請負などの雇用形態において、1求人当たりの募集人員が多くなっている状況がうかがえる。また、派遣、請負求人については求職者の応募状況も低調で、雇用全体の底上げには必ずしもなっていない。	
職業安定所（職員）		・求職者は、事業主都合離職者を中心に引き続き減少し、求人も派遣、請負業やパート求人を中心に増加しているが、経験、資格面を重視する求人が多いため、就職件数が大幅に減少しており、必ずしも雇用状況の改善にはつながっていない。	
やや悪くなる	-	-	
悪くなる	アウトソーシング企業（社員）	・かつては、忙しければその分稼げるというのが当たり前だったが、現在は、忙しくても利益が出ないという構造になってきている。これはサービス業全体に言えることで、サービス業は人件費が料金のほとんどを占めるのでこの状況が続くことにより、景気は悪くなる。	